

抱負文

(社外取締役候補 パメラ・フェネル・ジェイコブズ)

私は、金融業界における35年のキャリアを通じて、新たなビジネスの構築、新しい市場への参入、そして成長の加速に焦点を当てて参りました。積水ハウスにおいて、強力で永続的な成長戦略と効果的なガバナンス体制を実現するために、私は今般、取締役候補者とならせていただきました。

米国人女性として、私は積水ハウスに、ダイバーシティ（多様性を認める考え方）とインクルージョン（個々の人を活かす考え方）の観点から企業環境を見るグローバルな視点をもたらしたいと考えています。そして、私は、主にESG（環境・社会・ガバナンス）にフォーカスしたインパクト投資家としての経験を活かして、積水ハウスにおいて、以下の分野で明確に定義された目標を確立することに注力して参ります。

・戦略的成長

米国市場において積水ハウスの一層の事業拡大を図ることが重要課題の一つとなります。米国は、住宅供給が大幅に不足しており、また経済全般にわたって主にE（環境）に焦点を当てたESGインテグレーションの最前線にいます。積水ハウスは、自律的な成長と買収の双方を通じて、こうした環境を活かすことができる状況にあります。現在の米国投資家は、積水ハウスが米国事業で手掛けてきた不動産取引・案件を高く評価しています。積水ハウスをニューヨーク証券取引所に上場できるような体制の会社にするにより、必要に応じた追加的な資本調達や他企業との連携の可能性が促進されると考えます。

・ESG（環境・社会・ガバナンス）

ESGの分野での問題は、業績やリスク、リターンに影響を与え得るもので、企業内の問題の先行指標となる場合があります。私は、積水ハウスの企業戦略と整合性があり、投資家にも納得していただける長期的な持続可能性戦略を明確にすることを目標とします。

私は、持続可能な開発目標（SDGs）の考慮や国連の責任投資原則への署名を含めた、積水ハウスが既に注力しているE（環境）分野に加え、S（社会）とG（ガバナンス）の分野の改善・強化に努めます。

S（社会）の問題の重要性を理解することが世界中で一層広まっています。積水ハウスがSの問題に積極的に取り組んでいくことが重要であることは、論をまちません。企業のサプライチェーンは、劣悪な労働慣行や人権侵害がある場合、安定する可能性が低くなります。

労働者の離職率が増加し、労働者の士気や生産性が低下することにより、業務パフォーマンスが低下する可能性もあります。積水ハウスにおけるSの問題を効果的に解決することによ

り、士気に富み生産性が高く熟練した人的資源を確保し、市場における競争優位性を確立し、サプライチェーンを強化することができます。

独立社外取締役が過半数を占める取締役会を設けることは、積水ハウスを世界標準の水準にまで高めるために不可欠です。

・企業倫理

積水ハウスが継続して成功するためには、社外取締役を長とする「企業倫理委員会」(仮称)を設けることが重要です。株主、顧客、ビジネスパートナーは皆、私たちが倫理的に行動することを期待しています。現在、私たちはかつて以上に、自分自身に高い基準を設定し、それらの基準を維持すべく努めることを示す必要があります。

私は、積水ハウスに「企業倫理委員会」を設置して、すべての取締役、執行役員、そして従業員が遵守すべき倫理的行動規範を構築することを目標とします。

以上